

令和 2 年度 第 1 回行政改革推進委員会 会議記録

■日 時	令和 2 年 5 月 14 日（木曜日）午後 1 時～午後 3 時 10 分			
■場 所	岩滝保健センター 2 階ミーティングルーム及びオンライン			
■委 員	◎伊藤 伸 委員	○西川明宏 委員	○山添謙三 委員	浅利美鈴 委員
	京崎 操 委員			
■アドバイザー	杉岡秀紀 氏			
■事 務 局 (企画財政課)	小池大介 課長	小谷貴儀 課長補佐	渡邊稔之 主任	

注) ◎会長、○会長代理

※伊藤委員、西川委員、浅利委員、杉岡アドバイザーの 4 名は ZOOM によるオンライン参加

## 開会（午後 1 時）

### 会長あいさつ

今日はオンラインで自宅からの参加です。在宅勤務中でオフィスに行くのは週に 1 回くらいになっています。その場に行けなくても、今回のようにオンラインで開催するということは重要だと思いますし、色んな自治体と関わる中で実感するのは今回のコロナウィルス禍のような事態になった場合、一番対応がしきれないのは行政かなと思って、民間企業や NPO、大学などはオンライン等への対応は迅速だったと思うんですが、行政はセキュリティや国からの仕組みの問題があって、新たなことに対応しきれないと感じています。ちょうど今、デジタル規制改革という審議会の委員をしているんですが、これを機に自治体の ICT 環境の弊害をなくせないかなという話をしているところです。事務局には現場のお話を聞かせていただければと思います。

## 2. 令和 2 年度の与謝野町行政改革推進委員会について（予定）

-----（事務局から説明：会議次第参照）-----

## 3. 令和 2 年度与謝野町事務事業評価について

### ① 令和元年度事務事業評価について

-----（事務局から資料 1 の説明）-----

（伊藤会長）昨年度の事務事業評価の総括について説明いただきましたが、何かご意見ございますでしょうか。

（委員）昨年度二次評価を行った 128 事務事業について、結果的に予算額で言うといくら削減されたのか増額されたのか、合計で見るとどうなっていますか。

（事務局）資料 1 の最後に合計を書いていて -42,183 千円となっていますが、認定こども園施設整備事業という臨時的

な建設事業が－33,773千円となっていますのでそれを加味しなければ約－8,400千円となっています。

(委員) 今回の事務事業評価の大きな目的としてコストの削減ということだけではないということがあったと思いますが、そうは言っても削減効果というものも狙っているかと思います。率直に事務事業評価の結果をどうとらえているのでしょうか。感じたのは、E(予算拡充)という評価とF(事業見直しなし)という評価が合計で62となっていて、予算反映前は32なので大きくなっているのは、担当課からの「無理だ」というメッセージなのか、そのあたりをお聞かせいただけますか。

(事務局) 経常経費がベースとなる事業と臨時的経費が含まれているものがあって、臨時的経費は年度によってかわるものなので、この増減で一概にコスト削減に寄与できたかとは言い難いのではないかと考えています。事務事業評価で意見をいただいたことで組み立てを変えていったということがあって、臨時的なものを見直したのではなくて、経常的な経費の削減に努力してきたということが見えればいいんですが、昨年度初めて事務事業評価に取り組んだ中で分析に対する課題というものはあるかと考えています。

(アドバイザー) ---音声不具合のためチャットで---

(事務局報告を受けての所感)

- (1) 初年度の取り組みとして、政策形成過程における標準装備の種まきができた点は合格点だと思う。
- (2) しかし、コロナでこの動きが消極的になる可能性がある。与謝野町版行革で大事なものは①言語づくり、②文化づくり、③人づくり。この行革の流れを止めてはいけない。
- (3) 2年目以降の課題は、①人件費をしっかり計上すること、②住民(議会含む)理解をより得る広報にも注力すること(財政削減効果のみならず政策形成プロセスの見直しづくりをしていること)、③落ち着いたタイミング(とりあえず全事業の評価が一周した時期など)で施策評価や住民参加型の外部評価も検討すること。
- (4) (3)の②のためには行革甲子園(愛媛県で開催)などにも出場し、社会的評価も得るのもあり。

(委員) 事務事業評価の初年度ということで、こんな感じなのかなという印象ですが、説明を聞きながら感じたことは、目的達成のための期限、例えばこの事業は何年くらいかかるのかという意味で事務事業の評価をしていくと、今後、見直すタイミングも明確になると思います。中にはそぐわない事業もあるかと思いますが、1～5年で成果を出さなければいけない事業というものもあると思いますので、そういう視点も必要かと思います。例えば1年という期限を設定したときに、まだ出来ていないからもう1年頑張るとか、3年の設定で3年経ったけどまだ不十分だからもう1年頑張ってみるとか、そういう評価というものはないかと感じました。

(事務局) おっしゃる通りだと思います。例えば福祉分野の事業は終期を決めてできるものではなくて、継続していかなければならない事業だと思います。ただその中においても一定年数を区切って目標を定めることができる事業もあるのではないかと考えていますので、そういった視点も必要になってくると思います。金額の多寡だけに左右されるのではなくて、いつまでにこのくらいの効果を得る事業を設定するという視点も必要かと考えます。

(委員) 関連して、今回の評価は時間軸が加味しにくいところがあって、確か外部評価の中でも「来年度見直しは無理でも3年を目途に見直していく」というような評価をした記憶があります。そういう意味では、終期設定ができるような評価設定も考えられるかと思います。

二次評価（廃止/休止）で A になっているけども予算反映で F（見直しなし）になっているものはすべて将来的に廃止であるという認識ですか。理屈上は廃止という評価だけでもやっぱりいろんな事情があって廃止にはしないんだということはあるのではないかと思うんですが、先ほどの説明では将来的には全部廃止にするんだということかと思いますがいかがでしょうか。

（事務局）廃止予定、廃止を検討しているということで、基本的には廃止に向けて進めていくという認識です。ただ終期が明確になっているものばかりではありません。

（委員）事業評価で A になっているから、それが復活して継続するということではなくて、令和 2 年度にすぐに廃止にはできないけれど基本的には A になっているものは廃止にもっていくんだということになるんですか。A から C（予算削減を伴う見直し）は多分、廃止まではいけないけども予算を減らしたという考え方だと思うんですが、A から F の説明書きが「将来的に廃止」となっているのは、「今は無理でも将来的には廃止にするんだ」という風に読み取れるんですが、そこは間違いはないですか。

（事務局）そうです。なのでしっかり進捗を追っていかないとだめだと思っています。4 年で一回りする二次評価も事業によっては間隔を短くして確認していく必要があると思っています。

（委員）率直に思うのは、我々が評価しましたが、予算にどう生かされているのか、町議会議員もこの結果を念頭に質問されているのかとか、そのあたりのことが知りたいと思います。

（事務局）予算を計上する段階では、昨年度から早期の政策議論のために概算要求を取り入れるなど行政内部で意識して取り組んでいます。ただ、行政側から町議会にどこまで説明できているかということもありますが、まだまだそこまで取り上げられることはありませんでした。

（委員）初年度なのでこんな感じかと思います。町議会議員からは事務事業評価に懐疑的な方もいて、金額的な成果を見て「意味がない」ということが出るのではないかと思います。初年度であることと、金額的な成果だけを目的としているのではないということをしっかり説明する必要があると思います。

（委員）行政改革推進委員会での取り組みである外部評価が町議会で取り上げられたんですか。

（事務局）個別の事業について事務事業評価の結果を引用されたことはありましたが、事務事業評価自体に言及されることはなかったと思います。評価の結果について反故にするものではないですが、政策は議論なので、理事者の考えと担当課の考えと、議会の考えとが必ずしも一致するものではないので、事務事業評価結果の使われ方を間違えないようにする必要があります。

（委員）今回の見直し内容を見ますと、私たちが評価しましたことを加味してこのような結果になったということで、100%反映できるというものではないと思いますが、金額的な成果も出ているようですので、評価結果を反故にせず反映しているという点で、この取り組みは無駄ではなかったかなと思います。A 評価が変わったことも、今すぐ廃止はできないけども、近い将来に廃止する方向で取り組むということですし、今後もしっかりと進捗管理して続けていっていただきたいと思います。

（委員）令和元年度事務事業評価の二次評価を行った事業の令和 3 年度予算までの反映も含めて、しっかり追跡をす

（事務局）そのようにしていきます。

(委員) 資料1の各事務事業に番号が振られていますが、これは何に依存する番号ですか。所管に分かれているんですが、カテゴリー別なのか、どうやって見ると体系的に理解できるのでしょうか。

(事務局) 資料1は二次評価結果の評価区分順に並べていて、委員会において個別の事務事業について議論が及ぶ場合に「○番の事業ですが・・」と共有してもらいやすいように振っただけのもので、分野別などにはわかれていません。今回の資料は修正版で、最初にお送りした資料は担当課順に並んでいました。マトリクス表が評価区分についてのものなので、それと関連付けるために並び変えたものです。

(委員) これはこれで重要な資料だと思うんですが、与謝野町としてこの分野を強化するとか逆にここは見直すとか、そういうことが見えるような整理もしてみてもどうかと思います。今後のことも考えて検討いただきたいと思います。

(委員) 関連して、この資料に各事務事業がどのチームで評価されたかを示すことができますか。外部評価として実施したCチームとDチームの評価を明確にしたほうがいいと思うんですが、チームごとの評価結果に差異があるのかを見てみたいと思っています。

(事務局) そのようにします。

(委員) 事務局の実感として、チームごとの差が出ているということはありませんか。CチームやDチームが外部評価なので若干厳しめの評価ではないかと思います。ただそれと予算反映状況はどうなのかということが見えてくるかなと思います。

(事務局) A、Bチームは「事務事業の改善」ということを主眼に評価しましたので、少し甘めかもしれません。

(委員) やはり内部だとなかなか厳しく言えないけども、外部だと冷静な視点で評価できるということがあると思いますね。

## ② 令和2年度事務事業評価について

----- (事務局から資料2、3の説明) -----

(伊藤会長) 議題にCチームの取り扱いということがありますが、その説明をお願いします。

(事務局) 昨年度も実施した行革委員2名、総務課長、企画財政課長の4名で構成されたチームですが、町の課長職が入っているために、内部で決めた方向性がある、それを外部の委員と一緒に評価しているというような取り方をされたこともあり、そういう意図はないんだけど、誤解を招くようなことがあり違和感を感じているということです。

(委員) 予算編成の責任を持っている町幹部がここで評価をすると誤解を招くことがあるかということですかね。Bチームには副町長も入っていますのでそこはどうなんですか。

(事務局) Bチームは公開していないということがあります。内部的な評価としている点が違うと思います。

(アドバイザー) Dチームは公開が必須ですが、Cチームの位置づけを考えると公開の必要性はないかもしれません。

(委員) 予算編成の手前の段階で町幹部が議論に参加してはいけないということではなくて、実際には内部評価に関わることもあるわけで、先ほど事務局から説明があった理由をもってCチームはやらないといったことにはならないのではないかと思います。公開か非公開かということでは議論の中身は何ら変わらないわけで、落としどころとしてはCチームはやらないということでもいいし、先ほどご意見のあった「公開にしない」ということでもいいと思います。個人的には昨年の企画財政課長の取りまとめは素晴らしかったので、そういった機能を残しておく必要はあるのかなと思います。

(委員) 問題視されているのは、議論に町幹部が入って結論を出すのがいいのかということで、何のために事務事業評価があるのかということを考えれば、人材育成という面があって、課長が総括的な意見を述べて担当者が聞いて考えるということがあるわけで、その過程が大事だし、二次評価で結論付けても担当課がよく考えて予算には違った方向性を示すこともあり、二次評価はその一つのきっかけなので、そこに町幹部が入って議論することは何ら問題がないのではないかと思います。そういう説明ができれば誤解はされないのではないのかなと思います。説明不足もあるのではないかと思います。

(委員) 昨年、公開する場合は町のCATVを活用してはというご意見があったかと思うんですが、それをしたほうが町民のみなさんにわかってもらえると思います。町民のみなさんに町のことをもっとわかってもらうということも目的だと思うので、公開・非公開の色分けをしてはどうかと思います。

(委員) CATVを活用するということは、外部の視点でみんなでもてらおうということが大きな主旨になるので、まさにDチームには一番馴染むと思います。Cチームは内部と外部の中間点ですので無理に公開しなくてもいいかもしれません。公開によるリスクは内部の人間も交えて議論することに違和感を持たれる場合があるということで、Cチームは内部評価の一部として非公開で行う。A、Bチームと違って内部評価に少し外部の視点も入れてみるということは理屈として成り立つと思います。

(委員) Cチームは職員も評価員として参加するので、公開された場合に逃げ道がないということもあります。あからさまに批判の対象になる恐れもあるかもしれないですね。

(委員) ここまでの議論ならCチームは非公開で実施するというのでどうでしょう。

一同異議なし

(事務局) あらためてCチームの事業割り振りをして後日お知らせします。

(委員) 事業評価シートのどこかに目標年度を書き込むスペースを作っていただければと思います。

(委員) コロナ禍において、事業見直しの方向性も変わって思っています。出張もなくなりオンラインでの事業が増えて予算が減る分野、環境整備などで逆に増える分野が出てくると思います。仮想ワークが増えれば人口が増加する要素が出てくる可能性もあるとか。評価の視点が変わってくると思いますが、どうでしょうか。

(事務局) コロナ禍において必然的にできない事業が多く発生していて、事業を見直すきっかけになってきていると思っていて、オンラインの環境整備によって通常どおりやってきた事務がありようを変えていくきっかけになると思います。また、コロナの影響で事業ができなくても、結果的に目指す成果が変わらなかったということがあったとすれば、事業の必要性が明確になることもあるのではないかと思います。今の状況下ではまだまだ目に見えてこないかもしれませんが、事業評価をせずとも結果が見えてくる事業もあるという風に考えます。

(委員) 事務事業評価をする上で加味すべき現実問題であると考えますので、担当課にも口頭でも想定・検討するようにと伝えていただく必要があると思います。

(アドバイザー) 計画の作り方や評価の視点も変わる可能性があります。来週月曜日が評価シート作成の締め切りになっていますが、そこで書いたこともできなくなるかもしれません。コロナの影響で変わる・変えなければいけない事業を集中的に評価することも必要かなと思います。

(委員) 与謝野町はまだ感染者が少ない状況で、職員側の疲弊感はそこまでではないと認識していますが、このあと特別定額給付金が始まるなど、他の自治体では事業シートを書けないということもあって、どんどん後ろに延期している現状があります。与謝野町の状況は事業シートは何とか書けそうとか、大きな変化の中で業務継続はある程度できそうだというような感覚はいかがでしょうか。

(事務局) 与謝野町や京都府北部全体で考えたときには、そこまで影響を受けているとは言えないと思いますが、特別定額給付金や、臨時交付金を活用した新たな支援策が業務として追加されることになりますので、担当課に評価シート作成をお願いしているものの、二次評価の段階で各課の業務が重くなって事務事業評価に対応できないということがあるかもしれません。まだ見えないのが正直なところで、実施を前提に進めるべきかと思っています。

それと、コロナの影響で業務そのものを見直すという視点を入れていくことはなかなか難しいのではないかと思います。乳児健診などは在り様が大きく変わってきて、事業そのものを見直していかなければならなくなっていますが、他の事業は実際に細部に入らないとわからないということもありますので、一概にこうだとは言いきれないのが現状だと思っています。

(アドバイザー) 評価シートに欄を作ってしまうということではなくて、二次評価のディスカッションの中で確認していければいいと思います。来週月曜日が評価シートの締め切りならば、すでに新たな支援に動いている商工系の部署や特別定額給付金を担当している部署は提出できなくて、二次締め切りも必要になるかもしれません。影響を受けるグループにわけてディスカッションできればいいのではという問題提起です。

(委員) 先ほどの事業シートの中に終期を書く欄を設けることも含めて、今、担当課で作成中ですので新たに項目を追加するのは難しく、二次評価では終期設定と今回のコロナによる影響がどれくらいあるかをセットで議論することができればいいのではないかと思います。

(委員) シートの中で、コロナの影響を受ける事業であることが分かればいいなと思います。

(委員) 作成されたシートのなかで大雑把でもいいので、コロナの影響を受けている事業・そうでない事業と別れていると確かにわかりやすいと思います。

(事務局) 例えば、「よさのみらい大学事業」についても、外部から講師を招く事業で、現在、委託先を公募する段階ですが、今の状況下では公募をかけられなくなっています。他の課でもそういった事業があると思います。

(アドバイザー) 大学では短期間でオンラインでの講義に変わらざるを得なくなっていて、実際に変わっています。これはそういったノウハウのある事業者を発掘する機会にもなりますので、前向きに事業を見直すことができる議論をしていただければと思います。

(委員) 行革大綱の中で、政策形成のルールづくりするということを謳っていますが、こういうオンラインで進めていくことが政策形成に繋がるとは思います。そういったことを考えるのは企画財政課ですか。

(事務局) そうです。ただルールづくりを模索している状況です。まちづくり本部会という理事者と課長で構成する会議体がありますが、政策を作る上ではそこで議論して道筋をつけていきたいと思っていますが、まだまだそこまではなってないです。コロナの影響で検討までに至っていない状況です。

(委員) 今年度執行できない予算がかなり増えていくと思いますが、それを無理に執行することはなくて必要なコロナ対策に

振り向けたり、与謝野町としてこの情勢に応じたインフラ整備といったことにも投資すべきだと思います。逆に今年度でないと思えないと思います。

（伊藤会長）今日の議論をまとめたいと思いますが、昨年度実施した事務事業評価については初年度としては一定の成果が認められるところですが、これで終わりではなくて評価された事業の継続的な追跡調査が必要ということかと思えます。それを踏まえて今年度はコロナの影響が大きく出ていますので、どれくらい事業が変わってくるのかという見せ方ということを検討いただきたい。またCチームについては非公開として予定通りやっていくということ。行革の取組をいかに可視化するのかということもありますので、Dチームについては今まで以上に町民のみなさんにわかるようにCATVなどを活用することも検討すること。二次評価対象事業については今日明示された事業の中でやっていくということがまとめになるかと思えます。

スケジュールの件ですが、事務局としてはどうですか。

（事務局）Dチームは8月に2回、Cチームについては14事業ほどをお世話になりたいので、7月後半に2日間お世話になりたいと思っています。

（伊藤会長）コロナの影響についてはまだまだわからないことがありますが、個人的にはオンラインでの外部評価も選択肢としてはありうると思います。当然対面の方が空気も読めますしいいと思いますが、それ以外に方法がないということではないと思います。対面が難しければオンラインでやるということもあっていいと思っています。スケジュールなどは別途事務局で案を作っていたらいいと思います。

（事務局）各担当課で事務事業評価シートを作成していますが、今後コロナの関連でどこまで事業が増えるかわからない状況にありますし、終息後に新たな政策が組まれる可能性もあります。それ如何によっては事務事業評価に担当課が応じられないことがあるかもしれませんので、それによって事業数を見直すことなどがある場合もあります。会長にも相談させていただきながら日程等は固めていきたいと思しますので、やや流動的であるということをご承知いただきたいと思えます。

以上